

台湾海峡危機を いかに克服するか

- 平和研究者は何ができるか -

今年1月に刊行された鈴木隆『習近平研究——支配体制と指導者の実像』（東京大学出版会）を平和研究者はどう受けとめるべきだろうか。現時点でもっとも包括的な研究にもとづく鋭い問題提起を受けて、台湾海峡危機の克服のために、日本の平和研究者は何ができるのか、何をすべきなのか考えたい。鈴木隆氏と同世代で、中国外交論と平和研究の双方を専門とする加治宏基氏の報告を聴いたうえで、議論を深めたいと思う。研究会は対面とZoomのハイブリッドで開催する。

2025年7月15日(火) 17:00-18:30

会 場：立命館大学衣笠キャンパス 恒心館2階KS202教室
Zoom ID: 978 6825 0623 パスワード: 200910

報 告：**加治宏基氏** (愛知大学現代中国学部教授)
「中国の安全保障観と台湾——戦後国際秩序における定位とゆらぎ」

司会・討論：**君島東彦氏** (立命館大学国際関係学部特命教授、国際平和ミュージアム館長)

主 催：立命館大学国際地域研究所 平和主義研究会

問い合わせ先：kimijima@ir.ritsumei.ac.jp, 080-6117-6206



オンライン Zoom

